

平成 30 年度第 2 回 松戸市子ども・子育て会議録 (要旨)

1. 日時	平成 30 年 11 月 26 日 (月) 18:30~20:40
2. 場所	新館 7 階大会議室
3. 出席者	<p><委員> (50 音順) 19 名</p> <p>阿部委員、天田委員、石田委員、荻野委員、小野委員、加藤委員、神谷委員、小松委員、坂野委員、佐藤委員、知久委員、寺田委員、奈賀委員、百田委員、平井委員、藤原委員、文入委員、松崎委員、杢村委員</p> <p><松戸市></p> <p>子ども部長、子ども部審議監、子育て支援課、幼児保育課、子ども家庭相談課、子どもわかもの課、障害福祉課、教育企画課、指導課、事務局 (子ども政策課)</p>
4. 傍聴者	4 名
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 障害児福祉施策について 《報告》</p> <p style="padding-left: 20px;">・医療的ケア児への支援について</p> <p style="padding-left: 20px;">・ライフサポートファイルについて</p> <p>(2) 松戸市子ども・子育て支援に関するワークショップ</p> <p>3 その他</p>

<要旨>

1 開会

○子ども部長挨拶

2 議 事

○会議の成立

(事務局)

総委員数 25 名、19 名出席 (6 名欠席)

「松戸市子ども・子育て会議条例」第 6 条第 2 項の規定により、会議の成立を報告。

○坂野会長挨拶

○会議の公開

(事務局)

「松戸市情報公開条例第 32 条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

(坂野会長)

プライバシーに関する部分に充分配慮するものとして、公開することを了承する。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成したい。

(坂野会長)

議事録は事前に委員の了解を得た上で公開することを了解する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

4名の方からの傍聴の申し出あり。

(坂野会長)

入室を許可する。

(1) 障害児福祉施策について

(坂野会長)

議題1：「障害児福祉施策について」の報告をお願いしたい。

(障害福祉課)

「資料1：障害のある・発達のお子さんへの支援」をもとに、担当課から説明。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(荻野委員)

喀痰吸引の研修を受けたいと思っているのだが、毎週土曜に休みなく受講する必要があり、負担が大きくなかなか実行できずにいる。(市の施策として)研修費を補助するのもいいのだが、平日などに研修機会が増えれば、もっと研修を受ける方が増えるのではないかと思う。

(障害福祉課長)

ご意見を踏まえ、市内の事業所においてお願いをしていく。

(2) 松戸市子ども・子育て支援に関するワークショップ

(実施概要)

出席委員を5グループに分け、2つのテーマそれぞれについてワークショップ形式で意見交換を行う。(テーマは「妊娠・出産から未就学児とその家庭への支援」、「小中高生とその家庭への支援」。松戸市職員がファシリテーターとして、各グループに3名ずつ参画)各テーマの意見交換後に、各グループによる発表を行い、全体で共有した。

(ワークショップの内容については、次回(第3回)会議に各委員の意見(ポストイット)及びグループで作成した模造紙の内容について資料として提示する予定。)

以下、主なご意見

セッション1：妊娠・出産から未就学児とその家庭への支援

(意見交換及び発表内容要旨)

(Aグループ)

- 意見交換の内容をグループ分けすると、「情報発信」、「外国人」、「地域」、「困りごと」、「保育所」、「人材育成」の6つである。
- 地域については、地域ネットワークの強化が重要で、ママ友クラブや、地域資源（空き家などの「場所」や高齢者などの「人材」）を活用した「地域で育てる子育て」が必要である。
- 保育所については、待機児童は現状ゼロであるものの、週2～3日働いている親が保育を利用できないことや、東松戸の新しいマンションでは50人ほどの赤ちゃんが生まれている状況を考慮すると、保育ニーズが充足している状況ではない。
- 人材育成については、市の職員が2～3年で異動してしまうため、専門性の高い職員を確保することは課題である。

(Bグループ)

- 子育ては地域のつながりの中で行うものだが、松戸市は大きな自治体なので、支援につながっていない家庭をみつけづらいのが課題である。支援の中身を知らない方が多く、参加・利用できる支援メニューがあることをいかに知ってもらおうか工夫をしていく必要がある。
- 子育て不安の高まりや子育て力の低下が問題になる中で、子育て中の親が支援に関する情報収集をするのは大変なので、ワンストップのコーディネーターは必要ではないか。コーディネート機能だけでなく、できればそこで買い物や託児など、多機能集約がされているとよい。

(Cグループ)

- このグループでは、出席者の立場は多様であったが、親が子育てを楽しみ思えるようになることが子育て支援の重要な目的であるという視点は共通していたように思う。
- 松戸市の幼稚園は100%私学なので、他市からの利用者もたくさんいる。転出された方から、松戸市の幼稚園などはよかったという声もいただいている。
- 市への要望として、市の職員の異動のサイクルが早いと、新規事業については継続的に職員を配置してもらいたい。
- 質問だが、ライフサポートファイルは他市との共有はできるのか。
- (障害福祉課長)
- ライフサポートファイルは、他市と様式は同一ではない。保護者が必要な情報を自分で記入・編集していくイメージであり、様式が異なっても必要な情報は共有することができる。

(Dグループ)

- 外国籍の方については、的確に支援情報を届ける必要があり、パンフレットなどの多言語対応や、それが手元に届くような対応が必要である。たとえば、就学前のお子さんがある家庭であれば、各幼稚園・保育園にパンフレットを置くとよい。
- 親が子どもと遊ぶ時間が少ないことや、家の中で遊ぶ子どもが増えていることに対し、遊び場の整備や地域イベントを充実させる必要がある。東京では児童館を午前中から利用できるなど、子どもの遊び場の確保の取組みがあり、参考にしてほしい。

- 松戸市にはいい取組みがたくさんあるので、もっとPRができれば、親の安心にもつながると思う。

(Eグループ)

- 意見交換の行われた内容は、課題を持つ対象別に「子ども」、「保護者（出産前）」、「保護者（出産後）」、「子育て全般」にグループ分けできる。
- 子どもについては、多世代交流の機会が少ないことや、失敗から試行錯誤する機会が少ないことなどが課題である。
- 出産前の保護者については、妊娠中や出産間近の不安を相談できる場がないことが課題である。また、父親の育児への参加が不足しているという課題については、妊娠で身体に変化がある母親と違い、父親は頭が切り替わるきっかけがないことが要因として考えられるという指摘があった。
- 子育て全般については、出産後に子どもとの向き合い方を悩む人への支援が不足していることや、子どもと一緒に過ごせる場所が不足している。

セッション2：小中高生とその家庭への支援

(意見交換及び発表内容要旨)

(Aグループ)

- 意見交換の内容をグループ分けすると、「教育」、「外国人」、「地域」、「母の悩み」、「居場所」の5つである。
- 外国人については、文化の違いから日本人が傷つくような言葉を言うようなケースもあり、互いの文化への理解を深めるような取組みが必要である。
- 母の悩みについては、子どもの成長にともない母の悩みも変化するため、子どもだけでなく、母親の相談場所や居場所が充実するとよい。
- 居場所については、中高生が自発的に行きたくなるよう、思い出のある場所などを居場所として整備するなどの取組みも有効ではないか。

(Bグループ)

- SNSに悩みを書きこんだりする子どもが増えており、直接ひとと話す機会が減っているのは課題であり、家庭だけではなく学校もかかわっていく必要があるのではないかと。スマートフォンを持つ子どもも多く、睡眠時間や学習時間への影響がみられ、学力だけでなく脳への影響が危惧される。スマートフォンと子どもを切り離すのは難しいが、遊びの選択肢を増やすことが重要で、夢中になれるものをつくれるよう取組んでいく必要がある。
- 部活のあり方について、真剣に取り組めば取り組むほど活動が厳しくなり、本来的なスポーツや文化を楽しむという目的が損なわれる懸念がある。
- 家庭の経済格差などに対して学習支援は必要で、子ども食堂や放課後KIDSルームの充実とともに推進していけばいいと思う。

(Cグループ)

- 異年齢交流が重要であり、現在赤ちゃんとの交流は行われているが、小中高生が幼稚園との交流するのも有効ではないか。思春期の子どもは、年齢の近い人との交流も重要なので、遊び場を充実させる中で、大学生や若い社会人のボランティアなども検討いただきたい。
- 地域の交流も重要である。地域の子育て力が落ちていると言われるが、地域の人が子どもにふれる機会が少ないということも原因にある。塾と部活の中間のような活動や、年齢も居住地区も関係なくつどえるような場所があると

よいのではないか。子ども会を町内会などのコミュニティとつなげる取組みも有効である。

- 親同士の交流も重要で、学校などの集まりでも、先生が一方向的に話すだけでなく、親同士の交流につなげてほしい。
- 父親の育児への参加のためには、父親教育も重要である。

(Dグループ)

- 中高生の居場所がないため、行きやすくオープンな場所を整備する必要がある。異年齢交流や、外国籍の子どもや不登校の子どもがつどいやすいなど、多様な子どもたちが行きやすい場所であるとよい。子どもたちが多様なつながりを持てるよう、SNSの活用や無料 Wi-Fi を提供するなど、居場所を検討する必要がある。
- バンドやダンスなど子どもが自己表現できる場が市内に少なく、自尊感情を養うためにも、居場所がそうした体験のできる場所であることが重要である。学習相談ができるような場所であることも重要である。
- そうした居場所にするために、中高生自身が企画・運営する居場所を検討することも有効ではないか。
- 部活も土日のどちらかは必ず休みにするなど、子どものあり方を尊重する観点が必要である。

(Eグループ)

- 意見交換の内容をグループ分けすると、「保護者」、「子どもにとっての課題」、「地域」、「居場所」の4つである。
- 保護者については、保護者同士のつながりがないことや相談窓口がわからないことがあること、親子の会話が減っていることが課題である。また、保護者がなかなか子離れできないことも課題である。
- 子どもにとっての課題としては、子どもがその子らしくいられる空間が必要で、そのための遊び場が少ないことは課題である。塾に追われて疲れる子どもも多く、夢や目標を生みだす場が足りていない。思春期の悩み相談（恋愛や性のこと）をしゃべることのできる場所も必要である。
- 地域としては、部活に入っていない子どももスポーツを楽しめるような、参加しやすい場所が地域に必要である。
- 居場所については多数の意見が出た。

3 その他

○次回の会議の開催

(事務局)

次回の会議については2月から3月にかけての開催を予定している。